

共立女子第二中学校

2025年度

入学試験問題（2回PM）

【 国 語 】

試験時間 50 分

【 注 意 】

- 1 試験開始の合図があるまで、中を見てはいけません。
- 2 問題は一〜三で、全部で 11 ページです。試験中によごれや不足しているページに気づいた場合は、手をあげて監督^{かんとく}の先生を呼んでください。
- 3 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、解答用紙だけを提出してください。

一、次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。（本文には一部改めたところがあります）

あたり前の「便利」といえば、コンビニも僕たちの生活になくてはならない便利なものですね。ただ単に商品が売られているだけではなく、その名前の通り、僕たちの生活に「便利」を提供する拠点として進化し続けています。

そこに入るとほっとする自分がいることに気づきます。

それは、なんとなく安全で、なんとなくちゃんとしたものが並んでいて、そして気軽に必要なものが買えるという点で、知らず知らずのうちにコンビニに頼った生活を送っているからなのでしょう。

（中略）

なぜ、コンビニが僕たちの生活になくてはならないものになったのか。

それは、コンビニ各社が時代のニーズとともに、お客さまにとって便利な店になろうという涙ぐましい努力を続けてきた結果に他なりません。

よく売れているおにぎりやお弁当にしても、より美味しくさせるために、定期的に味の向上に努めたり、売れている商品の統計をとって陳列を変えたり……。①

A、僕にとってもコンビニは便利な場所であることに疑いの余地はありません。ですが、これだけ多様化が進んでいても、本来の意味での個性は生まれにくい場になっていると感ずることがあります。

京都の「古川町商店街」というところに1軒、「なんでも屋さん」のようなお店があります。小さな個人商店で、それこそコンビニの半分ぐらいの広さしかないのですが、このお店には見事にいい商品が並んでいます。ある意味セレクトショップのような感じで、その店主のセンスが光る品揃えになっているので、欲しいと思えるものがちゃんと置いてあるのです。

B、醤油ひとつ取っても「この醤油が好きだから置いてある」という店主の自信や主張がにじみ出っていて、僕の好みにすごく合うなあと思ったことをよく覚えています。

コンビニも、このようにもって店長の個性が出せる仕組みにしたらいいと思いませんか？ 少なくとも、全部が全部同じになっている「あたり前」を一度リセットし、どこでも、すべてが同じであることのつまらなさについて、考えてみるのはどうでしょうか。

③これはコンビニに限られたことではなく、商店街でも同じこと。

もつと視野を広げれば、世界中の繁華街にある有名なファッション・ストリートも同じです。どの国に行っても同じブランドが軒を連ね、空港の免税店も代わり映えがしません。日本で買うのもニューヨークで買うのもパリで買うのも、さほど違いがないのです。NHKの合唱コンクールで、小学生の部の課題曲として、僕が作詞した嵐の『ふるさと』が選ばれたことから、この合唱コンクールを広報する番組に携わったことがあります。

そこで「歌の上手い、きれいな声の人だけを集めても良い合唱にはならない」ということを聞きました。高い声や低い声があったり、きれいな声があればガラガラ声もあったり、いろんな声が集まってひとつのハーモニーが生まれ、人の心を揺さぶる合唱になるというのです。僕はそれを聞いて、「なるほど」と感銘を受けました。

それはつまり、単にムダを省いたり、利益や効率ばかりを追求してしまうと、個性という光り輝く宝物を見つけることが難しくなってしまうということ。

話を戻しますが、なぜコンビニに個性が生まれにくいのか。

それは、簡単に言えば、限られたスペースのなかで効率（つまり、売上）だけを重視しているからです。売れているものだけを残す、不要なものを取り除く。それによつて個性や店主色は消されていきます。

でも、せつかくこれだけの店舗数があるのですから、店長の個性が光る店や、「こんなの誰が買うんだろう？」という商品が置いてあつてもいいと僕は思っています。それは料理にも似ていて、一見必要のないような調味料が混ざっているからこそ、そこに味の深みや奥行きが出てくることがあるといえます。

唐突ですが、コンビニの棚に並ぶ商品たちを、自分の友だちに置き換えてみましょうか。【ア】

たとえば、好きな人ばかりを自分の周りに集めたとしたらどうなるか？ 【イ】きつと、自然と似たような性格の人や、モノの考え方をする人ばかり集まってしまうと思います。【ウ】

それよりも、喧嘩ばかりしていた友だちや、ちよつと変わっているな、という印象だった友だちのことを、忘れずに覚えていたりします。【エ】

そう考えると、コンビニにしても、ただ売れる商品だからという理由でどの店に行っても同じもののしか置いていないのは、ちよつ

とつまらないと僕は思います。

今では高級食材として扱あつかわれているトロが、昔は捨てられていたというのは有名な話ですが、⑥。それが、普通ふつうでは味わうことのできない人生の豊かさが生まれるきっかけになるはずです。

〔小山薫堂『じぶんリセット』による〕

問一 A・B にあてまはる語として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア もちろん イ たとえば ウ しかし エ つまり

問二 ①「本当の意味での個性は生まれにくい場になっている」とありますが、その理由を説明している部分を本文中より三十三字で探し、はじめと終わりの五字をぬき出しなさい。（句読点や記号も一字とします）

問三 ②「いい商品」とありますが、このお店に置いている商品の説明としてあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア みんなが欲しいと思える人気の商品。 イ その店主の個性やセンスが光る商品。

ウ 筆者の好みによく合っている商品。 エ 店主の自信や主張が出ている商品。

問四 ③「これ」が指す内容として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 便利な店になろうという努力を続けてきたこと。 イ 僕たちの生活になくはならないということ。

ウ 同じような店ばかりになってしまっていること。 エ 店長の個性が出せる仕組みができていること。

問五 ④「良い合唱」とはどのような合唱ですか。それを表す言葉を本文中より十字でぬき出しなさい。

問六 ⑤「一見必要のないような調味料」とありますが、同じような意味を表す言葉を合唱コンクールの体験談の中から五字でぬき出しなさい。

問七 次の一文が本文中よりぬけています。【ア】く【エ】のどこにもどせばよいですか。記号で答えなさい。

大人になってから当時を振り返ってみると、そういう人たちは意外と印象に残らないものです。

問八 ⑥にあてはまる文を自分で考えて答えなさい。ただし、「価値」「不要」の二語を必ず用いること。

問九 本文中で筆者が述べていることの説明として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア コンビニは人気商品と店長の好きな商品をバランスよくそろえている。

イ 小さな個人商店は売り上げを気にしない経営をしているところがよい。

ウ 空港では多様なブランド店が立ち並び、それぞれが個性を出している。

エ 利益や効率ばかりを追いつめることは、個性や店主色の消失につながる。

問十 本文中で筆者がしている工夫としてあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 別のことがらに置き換えて説明することで、よりイメージしやすくしている。

イ 前もって反対意見を予想しておくことで、反論の余地がないようにしている。

ウ 自らの経験を述べることで、実際に感じたこととして説得力を持たせている。

エ 二つのことがらを比較しながら説明することで、より伝わりやすくしている。

二、次の「Ⅰ」・「Ⅱ」の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。（本文には一部改めたところがあります）

「Ⅰ」

少女は毎朝、きまった時間に、通学かばんをさげて坂道をくだる。

坂の下には、最近、団地ができたが、この坂まではまだ舗装もとどかず、道ばたには小さな草の芽が青い。

その坂をくだりきるあたりで、少女はいつからともなく、一台の乳母車とすれちがうようになった。黄色い小さな乳母車に、くりふとった赤ん坊をのせて、若い母親がゆっくりと押して。少女が坂の下についてふりかえると、なだらかではあるが長い坂を、乳母車は、車輪の金具を光らせながら、いつもしずかにのぼってゆくのだった。

毎日のことで、顔なじみになってからも、どちらも口をきくでもない。少女は若い無愛想さで、母親もまた無口なたちなのか、おたがいに意識はしていても、いつもだまってすれちがってゆく。

それでも少女は、坂をくだりきるまで乳母車の姿が見えないと、なにかものたりない感じで、A 立ちどまって、あたりを見まわしたりする。そして、むこうの角をゆっくりとまがってくる乳母車の、あざやかな黄が目にとまると、なんとなく安心して学校へいそぐのだった。

B 夏がすぎ、秋が来て、制服のスカートがスラックスにかわるころ、少女は、かぜをひいた。学校を休むまいと、はじめに無理をしたためにこじらせて、熱が高い。一日だけと思った欠席が、C 一週間にまでのびた。

ここまで休んでしまうと、こんどは学校へ行くのがおつくうになる。テストが近いのに、ノートはかなりの部分が空白のまま。D 二学期の終わりまで休んだほうがよかったかと、なかばやつぱちなことを考えながら、少女は重い足どりで坂をくだった。それでも、心のすみでは、やはりいつもの習慣をわすれていなかったのだろう。坂をくだりきるところで、少女はふと立ちどまつた。見なれたものが見えない。黄色い乳母車がまだ来ない……。

あの赤ちゃんもかぜをひいたのかもしれない、と思いながら、あきらめてふたたび歩きだしたとき、③ 少女は思わず、口の中で小さな声をたてた。

目のまえに、あの子がいた。母親に手をひかれて、顔じゅうを笑みにくずし、小さな青いくつで、しっかりと土をふみしめて。母親は、④ 少女にもはじめて笑顔^{えがお}をむけて、子どもに声をかけた。

——さあ、行こうね。ゆっくり、ゆっくり。

子どもは、しんけんな顔をして、慎重^{しんちょう}に足をふみしめながら、いつぼうでは、一步一步、くつをとおして足うらにつたわってくる大地の感触^{かんしよく}をたのしんでいるらしい。

少女は歩きながら、ふりかえって、そのあとを見おくった。

長い長い坂が、子どもの目のまえにある。坂の上に、青い空が見える。子どもはいま、自分の足で、その坂道をのぼろうとしていた。ひと足ずつ、ゆっくり、ゆっくりと。

⑤ 少女は、きゆうにしゃんと背をのばして、歩きだした。

吹きぬける風が、ほほにこころよい。このさきは、平地の街なみがつづくのだけれど、少女はいま、E 自分の目のまえに、長い長い坂を見ていた。あのおさな子とおなじように、その坂を一步一步たどってゆく、若い健康な自分の足を感じていた。

〔Ⅱ〕

——あの坂をのぼれば、海が見える。

少年は、朝から歩いてきた。草いきれがむっとたちこめる山道である。顔も背すじも汗^{あせ}にまみれ、休まず歩く息づかいがあらう。

——あの坂をのぼれば、海が見える。

それは、おさないころ、添^そい寝^ねの祖母から、いつも子守唄^{こもりうた}のように聞かされたことだった。うちのうらの、あの山をひとつこえれば、海が見えるんだよ、と。

その、山ひとつ、ということばを、少年は正直にそのまま受けとめていたのだが、それはどうやら、しごく大ざっぱなことばのあや^⑥だったらしい。げんに、いまこうして、峠^{とうげ}を二つ三つとこえても、まだ海は見えてこないのだから。

それでも少年は、呪文^{じゅもん}のように心となえて、のぼってゆく。

——あの坂をのぼれば、海が見える。

のぼりきるまで、あと数歩。なかばかけだすようにして、少年はその頂に立つ、しかし、見おろすゆくては、またも波のように、くだつてのぼって、そのさきの見えない、長い長い山道だった

少年は、がくがくする足をふみしめて、もういちど氣力をふるいおこす。

——あの坂をのぼれば、海が見える。

^⑦少年は、いま、どうしても海が見たいのだった。こまかく言えばきりもないが、やりたくてやれないことのかずかずの重荷が背につきもりつもつたとき、少年は、磁石が北を指すように、まっすぐに海を思ったのである。自分の足で、海を見てこよう。山ひとつこえたら、ほんとうに海があるのをたしかめてこよう、と。

——あの坂をのぼれば、海が見える。

しかし、まだ海は見えなかった。はうようにしてのぼってきたこの坂のゆくても、やはりいままでとおなじ、はてしない上り下りのくりかえしだったのである。

もう、やめよう。

きゆうに、道ばたにすわりこんで、少年はうめくようにそう思った。こんなにつらい思いをして、坂をのぼったりおりたりして、

いったいなんの得があるのか。このさき、山をいくつこえたところで、ほんとうに海へ出られるのかどうか、わかったものじゃない……。

ひたいにじみでる汗をそのままに、草の上にすわって、とおりぬける山風に吹かれていると、なにもかも、どうでもよくなってくる。じわじわと、疲労が胸につきあげてきた。

日はしだいに高くなる。これから帰る道のりの長さを思っ、重いため息をついたとき、少年はふと、生きものの声を耳にしたと思つた。

声は、上から来る。ふりあおぐと、すぐ頭上を、光が走つた。つばさの長い、まっ白い大きな鳥が一羽、ゆつくりと羽ばたいて、先導するようにつぎの峠をこえてゆく。

——あれは、海鳥だ！

少年はとっさに立ちあがつた。

海鳥がいる。海が近いのにちがいない。そういえば、あの坂の上の空の色は、たしかに海へとつづくあざぎ色だ。こんどこそ、海につけるのか。

それでも、ややためらつて、ゆくてを見るかす少年の目のまえを、蝶のようにひらひらと、白いものが舞いおちる。てのひらをすばめて受けとめると、それは、雪のようなひとひらの羽毛だった

——あの鳥の、おくりものだ。

ただ一片の羽根だけれど、それはたちまち少年の心に、白い大きなつばさとなって羽ばたいた。

——あの坂をのぼれば、海が見える。

少年はもういちど、力をこめてつぶやく。

しかし、そうでなくともよかった。いまはたとえ、このあと三つの坂、四つの坂をこえることになろうとも、かならず海に行きつくことができる、^⑧行きついてみせる。

白い小さな羽根をてのひらにしつかりとくるんで、^Fゆつくりと坂をのぼってゆく少年の耳に——あるいは心の奥にか——かすかいおざいのひびきが聞こえはじめていた。

問一 A D にあてはまる語として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア いっそ イ ちよっと ウ とうとう エ やがて

問二 ①「重い足どりで」とありますが、少女の説明としてあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一週間休んでいる間に、友達との大切な約束をすっぽかしてしまいどう謝ろうか悩んでいる。

イ 一週間も学校を休んでしまったので学校へ行くことがなんとなく面倒なように感じている。

ウ 空白になっているノートの遅れを取り戻さなくてはならないことを気が重いと感じている。

エ 一週間ずっと家にいたせいで体力も落ち、久しぶりの外出に疲れやすくなってしまっている。

問三 ②「いつもの習慣」とありますが、具体的にはどのようなことですか。本文中の語句を用いて十五字以内で説明しなさい。

問四 ③「少女は思わず、口の中で小さな声をたてた」とありますが、その理由を三十字以内で説明しなさい。

問五 ④「少女にもはじめて笑顔をむけて」とありますが、その理由として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 歩き始めた自分の子どもの頑張り（がんばり）を周囲に言いふらしたい気持ちがあったから。

イ 今までも話しかけたかったが少女の不愛想さにまけてできなかったただけだから。

ウ 久しぶりに会った少女が子どもの成長に気づいてくれたようで嬉しかったから。

エ 一週間も少女に会えなかったことを心配していたので元氣（げんき）そうで安心したから。

問六 ⑤「少女は、きゆうにしゃんと背をのばして、歩きだした」とありますが、その理由として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 投げやりな気持ちであったが、小さな子どもがひどい風邪（かぜ）から回復した姿を見て感動したから。

イ 小さな子が自分の足で一歩ずつ歩いている様子を見て、自分もまけていられないと感じたから。

ウ 小さな子が一生懸命（いっしょうけんめい）に歩いている姿を見て、自分のだらしない歩き方を恥ずかしく感じたから。

エ 子どもが歩く姿に感動していたが、我に返ると学校に遅刻（ちこく）しそうだと感じ、焦（あせ）っているから。

問七 ⑥「しごく大ざっぱなことばのあやだったらしい」とありますが、これはどのようなことですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 少年が勘違い^{かんちが}してしまっただけで、実はこの言葉は子守唄の歌詞の一部であったということ。

イ 祖母も実際に行ったことはなかったけれど、昔からの言い伝えによる言葉であったということ。

ウ 本当は遠いことはわかっていたが、少年の夢を壊さないようについたらうそであったということ。

エ 正確な情報というわけではなく、祖母の大まかなイメージによる言葉でしかなかったということ。

問八 ⑦「少年は、いま、どうしても海が見たいのだった」とありますが、その理由として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 家族に裏切られたような気持ちになっていたので、祖母の言葉を確かめたくなったから。

イ 今までは周囲に言われるままに生きてきたが、そうではない生き方をしたくなったから。

ウ 思い通りにならない生活の中で、何かを自分自身の力でやり遂げたいと強く感じたから。

エ どうしても海でしななければならないことができたが、家族は連れて行ってくれないから。

問九 ⑧「行きついてみせる」とありますが、このように少年を決意させたものは何ですか。本文中より漢字二字でぬき出しなさい。

問十 E「自分の目のまえに、長い長い坂を見ていた」・F「ゆつくりと坂をのぼってゆく」とありますが、【Ⅰ】・【Ⅱ】両方の文章をふまえて、坂は何を表現していると読み取ることができますか。あてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の前に広がっている可能性 イ すべてのことが好転していく予感

ウ 乗り越えたら自信となる成長段階 エ その先を知りたいと思う好奇心

《問題は次のページに続きます》

三、次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～④の慣用句の□にあてはまる「動物を表す漢字」をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① □の威いを借る ② □の耳みみに念仏 ③ □をかぶる ④ 立つ □跡あとを濁にごさず

ア	猫 ねこ	イ	犬	ウ	馬	エ	鳥	オ	虎 とら
---	---------------------	---	---	---	---	---	---	---	---------------------

問二 次の①～④の俳句が表す季節として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません)

- ① 雪虫ゆきむしの日暮れの先のこと知らず ② あをあをと空を残して蝶ちょう別れ
 ③ 鈴虫すずむしのいつか遠のく眠ねむりかな ④ 蝉せみ鳴けり泉湧いづくより静かにて

ア	春	イ	夏	ウ	秋	エ	冬
---	---	---	---	---	---	---	---

問三 次の①～④の熟語の構成の説明として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません)

- ① 独奏 ② 苦痛 ③ 安否 ④ 除名

- A 同じような意味の字を組み合わせたもの。 (例) 良好
 B 反対の意味の字を組み合わせたもの。 (例) 大小
 C 上の字が下の字を修飾しゆしよくしているもの。 (例) 緑色
 D 下の字が上の字の目的語になっているもの。 (例) 登山

問四 次の①～④の文の——線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- ① 貧しい状況にある。 ② 権利を保障する。 ③ 菓の効果であられる。 ④ 密接な関係を築く。

問五 次の①～④の文の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなをひらがなで書きなさい。

- ① お年寄りをユウセンする。 ② ギャクテンして勝利する。 ③ 朝日で目をサマス。 ④ ヘイコウな線を引く。